

緑の地球

GREEN EARTH

地球環境のための国境をこえた民衆の協力



9月12日におこなわれた海岸林再生・復興植樹祭では秋晴れの空の下、マツの植樹をおこなった

Contents

- 2015 カササギの森レポート P 2
- 夏期カンパのご報告 P 2
- 2015 黄土高原スタディツアー日誌より P 4 ~ 5
- 西伊豆収穫合宿・自然と親しむ会参加者募集 P 6

2015.9
165

認定特定非営利活動法人 緑の地球ネットワーク



2015 カササギの森 レポート

～谷の東側の花木、マツ等も順調に育っています～



カササギの森の管理等側からの眺め (2015年8月)

カササギの森の中央部に南北方向の谷があり、底には小さな流れがあります。あの谷から西に1.2km、東に0.8km、南北は4kmほどがこの敷地です。でも、ツアーなどは谷の西側で活動し、谷の向こう側に行くことはめったにありません。

2001年にスタートしたとき、谷の底にはポプラ、ヤナギ、タマリクスなどの喬木・灌木が茂り、ウメバチソウ、ルリタマアザミ、シロネなどたくさんの草花が咲いていました。自然の緑と水にここほど恵まれているところは大同の近くにありません。それが魅力でこの場所を選んだのです。

ところが2003年7月、上流で集中豪雨があり、最大で深さ4.2mもの土石流がこの谷で発生しました。一抱えも



谷底に立つとポプラなどの成長がよくわかる



ノモモ (山桃) がたくさん実をつけた

あるポプラがなぎ倒され、灌木や草花もすっかり流されてしまいました。「喜鵲林」とペンキで書かれた直径1mもある岩まで行方知れずになりました。下流の聚楽堡村では4人の犠牲者をだしたのです。緑の大切さを痛感させられたものです。

それらの樹木がいまではほとんど再生してきま

した。上から流されてきたものがここに根付くといったこともあり、種類は以前より豊富なくらいです。

植樹は谷の西側から始め、それが終わってから東側に移りました。ですので長い間、谷の東側は裸地のままでした。ところが最近になって、東側にも緑が広がっているのを対岸からも見る事ができるようになりました。

遠目にはうっすらですが、現場に立つとけっこう大きく育っています。この特徴は花木をたくさん植えていることで、三洋電機労働組合などの協力をえました。ノモモ (山桃)、アンズ (山杏)、キバナハマナス (黄刺玫) などが季節になるときれいな花を咲かせ、たくさんの種をつけます。小鳥やリスなどに運ばれて、ほかにも広がっていくことでしょう。

マツなどの針葉樹も植えていますが、これについては管理棟のすぐ前のモンゴリマツが大きくなってきました。2001年の着工直後に植えたもので、去年は平

均35cm、今年は45cmも伸びて、5mを超えるものもたくさん出てきました。(高見)

東北海岸林再生活動に みんなで参加しました



9月12日(土)午後2時から宮城県岩沼市寺島地区の阿武隈川河口近くで、ゆりりん愛護会(名取市、大橋信彦会長)と宮城県緑化推進委員会が主催した「海岸林再生-復興植樹祭」に緑の地球ネットワークからも関西はじめ各地から会員など18名が参加しました。

前日に大雨警報が発令され心配しましたが、当日は快晴に恵まれ気持ちよく作業することができました。(詳細次号)

今年も夏期カンパのご協力 ありがとうございます

会報7月号で夏期カンパに協力をお願いしたところ、7月4日から9月5日までの間に、65件、1,400,039円のご協力をいただきました。今年度ははじめからの累計は114件、1,939,800円になります。ご協力ありがとうございます。

以前の実績との比較は次の表のようになります。夏期カンパの集計期間は、年度によって数日の差があります。

	夏期カンパ	累計
2015年度	1,400,039円 (65件)	1,939,800円 (114件)
2014年度	691,358円 (76件)	8,815,798円 (126件)
2013年度	3,599,283円 (85件)	4,853,665円 (139件)

昨年、一昨年は大口のカンパをいただいて金額が多くなっています。今年度はそれがいないため累計額は少なくなっていますが、夏期カンパ分は昨年にくらべると2倍以上の金額です。重ねてみなさんのご協力に感謝するとともに、今後ともよろしく願っています。

対中 ODA の現状を知る

小西 美保子 (GEN 会員)

7月23日、大阪市立総合生涯学習センターにて GREEN なんでも勉強会「中国に治山を～四川大地震緑の復興協力」をおこない、18名が参加しました。JICA 技術協力プロジェクトの四川大地震後の緑化協力についてお話しいただきました。

2015年7月23日(木)、大阪梅田の大阪市立総合生涯学習センターの研修室で、GEN 世話人であり、元 JICA 技術協力プロジェクト専門家の町田良太さんを講師にお迎えして、「GREEN 何でも勉強会」が開催されました。参加者18名で、質問や意見が飛び交う活



発な勉強会となりました。

講演のテーマは「中国に治山を～四川大震災緑の復興協力～」。町田さんご自身が、震災後 JICA の森林植生復旧計画プロジェクトのメンバーとして活動されたご経験から、プロジェクトの内容をご紹介いただくとともに、JICA の ODA の状況、治山の概念なども分かりやすく講義いただきました。実際に現地でも活動された町田さんのお話はとても現実感があり、聞いていて一緒に活動された地元の方の顔や、やり取りが思い浮かぶようでした。

印象に残ったのは、プロジェクトの目的が地元の人たちの力で継続して治山をおこ

なえるようにすることにあり、そのため大規模な土木工事を伴わない工法を選択し、使う資材も現地で調達できるものを選ばれたということでした。

また、人材育成にも注力され、最初は日本からの技術者がおこなっていた実施計画策定や教育を数年で現地の技術者がおこなうようになったとのこと、とても驚きました。

一方、対中国の ODA は政治問題の影響もあり、近年案件が減少しているというお話もあり、日中関係と今後の GEN の活動について改めて考える機会にもなりました。

町田さんは今年8月から、ネパールで再び JICA のプロジェクトに参加されます。ご健勝とご活躍をお祈りしたいと思います。

いますぐできる GEN への協力

■会員の輪をひろげよう!

緑の地球ネットワーク会費 (年額)

一般会員	12,000円
家族会員 (同居の家族2人目から)	6,000円
学生会員	3,000円
ジュニア会員 (中学生以下)	1,000円
団体会員	12,000円
賛助会員	100,000円

※会費は会報購読料を含んでいます。

■会報を購読してください!

GEN の活動に関心はあるけれど会員になるのはちょっと、という方は、会報『緑の地球』を購読してみませんか。年間購読料2,000円。

■緑化基金、運営カンパもとむ

金額は自由です。GEN への寄付は、寄付控除の対象となります。また、緑化基金、運営カンパの別を問わない用途自由のご寄付も受け付けます。その場合、必要に応じて使わせていただきます。

*緑化基金の20%は事務管理費になります。

■絵はがき『黄土高原の花』
8枚組・300円 (送料別途。5セット以上送料無料)

■書き損じはがきを集めています

書き損じはがき、古い未使用のはがきを集めています。通信費にあてます。

■未使用切手・古切手を集めています

普通切手、記念切手、外国切手なんでも OK。周囲を1cmほど残して切り取ってお送りください。

■ボランティア募集

会報発送や事務所の手伝いなどのボランティアを随時募集しています。ボランティア可能な曜日、時間帯をご連絡ください。来ていただきたいときに GEN 事務所から連絡します。

* * * * *

【GEN への寄付は税制上の優遇措置を受けられます】

緑の地球ネットワークは所轄庁(大

阪市)に認定された認定 NPO 法人です。(期限は2019年4月8日まで)。

GEN への寄付は、所得控除あるいは税額控除を受けられます。対象となるのは2,000円を超える寄付金で、確定申告が必要です。

企業(法人)からの寄付金は、一般寄付金の損金算入限度額とは別枠の損金算入限度額が認められています。

また個人が相続または遺贈により取得した財産を、相続税の申告期限以前に認定 NPO 法人に寄付すると、相続税の課税対象から除外されます。

GEN の場合寄付金となるのは、緑化基金、運営カンパ、おまかせカンパと会費のうち1口を超える部分、賛助会費から12,000円をひいた金額です。

また、大阪市民のかたは市民税控除を受けることができます。くわしくは GEN までお問い合わせください。



大同の自然、歴史、今に触れる

2015 黄土高原スタディツアー日誌より

今年はGEN黄土高原スタディツアー（8月22日～8月28日、19名）、とイオンリテールワーカーズユニオン（8月25日～27日、26名）、サントリー労働組合（8月24日～26日、11名）、大阪府RR厚生会（9月4日～9月8日、8名）が大同を訪問し、緑化活動に汗を流しました。今回はGENツアーの日誌の抜粋をご紹介します。



アワ畑の脇を通過して南天門自然植物園へ向かう

●8月23日（日）くもりのち大雨

ここから先はバスが入れないので歩いてください、といわれ、山道を歩く。デルフィニウム、朝顔、ツルニンジン、どの花も岡山のわが家の近くにもあるが、色のあざやかさが全然ちがう。きれいだ。

アワ、キビ、トウモロコシ等、名前は知っているけれど実際に生えているのを見るのははじめてだ。特に麻は面白い。麻は、茎は布になり実は調味料になり葉はなんと大麻。「これをポケットに入れておくとつかまりますよ～」とのこと。気をつけましょう。



突然の豪雨で道が川と化した

植物園というから、入場客も来たりするにぎやかなところと思っていたが、こんな山奥に遊びにくる人はいないから。植物を育てたり研究するところらしい。

植物園スタッフにあいさつ。説明を聞いて、苗木、水、スコップなどを持って出発。はじめは全員で2本植えると聞いていたが植物園の人に渡されるままに持っていき、結局アブラマツを6、7本植えた。

私は黄土高原というから黄土色の裸の大地に植えると思っていたが、かなり草や木のしげっているところで、20年あまりの緑の地球ネットワークの業績はすごいな～と感動した。

管理棟でインスタントラーメン、ゆで玉子、ソーセージ等で昼食。中国のインスタントラーメンは日本より大きめでからい。できるだけからそうでないのを選んだが、やっぱりからい。アジア人はからいもの好きが多いが、私はからさに弱い。

近くの南天門（1,316.8m）登山。無理はしないように～といわれたが行ってみることにする。しばらくすると雨。そのうち止むだろうと進んでいたが、雨はだんだんひどくなり、雷も鳴りはじめたので退却。なんとなんと雹もふってきた。

止みそうもないので雨装備でバスの待っているところまで歩く。たった4時間前に野草やトウモロコシ、アワを見ながら歩いたあの道がドロ水

で川のようになっている。ドロにまみれながら30分。やっとバスに乗り込むが、バスの前は川のように。あれ？ さっきこんな川あったっけ？

黄土高原の土は水を吸わないので、降った雨がそのまま土の表面をけずりながら濁流となって流れてしまうという。恵みの雨もなかなか恵みにならないらしい。

バスのうしろに家族3、4人乗った小さな三輪トラックが立往生。西島さんが後を押してなんとかドロの川を渡らせてあげる。バスも続いてなんとか脱出。しばらく行くと車の大渋滞。

道に土石流が流れ込んでにっちもさっちもいかない。

どこからこんな大量の土石流が流れ込んできたのだろう。

待つ間に反対車線にうしろからの車が来たり、見物人が来たり～。誰かが「こんな時は水売りや物売りが来るもんだ」と言っていたが、今日は雨も降っている、それはなかった。

大型ブルドーザーがやってきて石をどける。

さすがにブルドーザー（車体に超強



土石流を片づけるブルドーザー

王とかいてあった）、大量の土石流をガバガバどける。

やっと脱出。前中さんの説明によれば、このブルドーザーのおじさんは土石流をのける前にドライバーと交渉。1台20元を払うことになったらしい。20元が高いか安いかわからないけれど、とりあえず助かった。

（荒武俊子）

●8月24日（月）くもりのち雨

午後はアンズ園を見学した。そこで村の書記である王さんに話を聞かせてもらった。もともと小学校の子どもの



8月25日、3つの団が揃い、にぎやかに植樹作業がおこなわれたあとの記念撮影

ためにアンズの木を植え、得た収入を教育改善に使ったようである。その後は村人の収入向上を目的として事業を拡大した。

もしアワとかトウモロコシだと1ムー（※）で200～300元の収入になるが、アンズを売ったら1ムー約1,000元の収入になる。アンズの木を植え、4年目になると実がなるが、量が少ないのでお金にならない。7年目になってから本格的な収穫期を迎える。呉城郷にはトータルで4,420ムーのアンズがあるが、それを「一人あたり2.3ムー」という基準で村人に分けている。もし1家族に5人がいれば1年で2.3×5×1,000＝11,500元の収入を得る。

GENは緑化や環境改善だけではなく、村人の収入向上に対しても力を入れて、素晴らしいことであると思う。

（趙俊）

※ムーは面積の単位。15ムー＝1ヘクタール。



無事に成長することを祈りつつアブラマツを植える

●8月25日（火）

サントリー（11名）とイオン（26名）の労働組合のメンバーが合流。若者ばかりのにぎやかな一行が加わり、GENの2015黄土高原スタディツアーも一気に活気づいた。バスも、計3台となる。1台は大型で、堂々たる編成。

GENの中国側カウンターパートである「緑色地球ネットワーク大同事務所」の車（ホンダ）の先導で、天鎮県張西河郷史家密村へ。そのホンダ車は、走行距離が47万kmになるのだという。地球を10周したことになるのかな。それだけ活躍してきた証拠。そろそろ車検だそうだが、部品が入手できないこともあって、どうするか頭を悩ませているという。「ご苦労さん!!」の気持ち。

去年は工事中だったという舗装道路を突っ走る。道路の両側には工場群が続き、近くには新しい大規模工業団地を造成中という。

これに関して、興味ある話を聞かされた。この工業団地の労働力を確保するため、「農村戸籍」の人を「都市戸籍」に変更するのだという。中国では農村戸籍の人は教育や就職の面で不利なため、都市戸籍を欲しがることが多いと聞く。「都市戸籍」取得を条件に農村の労働力を集めようという政策と思える。単なる“ニンジン勧誘”にならないことを祈る。

10:30AMごろ、地球環境林に到着。「热烈欢迎日本绿化协力团」の横断幕をくぐって、植樹の現場へ。約30分ほどならかな坂道を登って、植樹地にたどり着いた。地元の人たち10人ほどが、スコップ、苗木などを用意して待ちうけていた。植樹用の穴はすでに多数掘ってあった。

総工会主席の歓迎の辞などセレモニーのあと、一斉にアブラマツの苗木の植えつけを開始。人数が多いこと、若い人がいっぱいあって、作業はスピーディに進んだ。200本から300本を植えたという。これらの苗木が無事に根付くことを心から祈りながら、現場を後にした。（荒武一彦）

●8月26日（水）くもりのち雨

12時10分に緑の地球環境センターに到着。空に黒い雲が現れ、雨が降りだすも、室内で昼食のため濡れずにすむ。昼食の準備ができるまで、スイカやトウモロコシをいただく。大変おいしく、スイカをおかわり、昼食もどれもおいしく、食後には雨もやみ、再び青空と涼しい風の過ごしやすさの気候となる。

13時30分、センターの見学開始。高見さん、前中先生の説明で、センター内の植物を見学。今年は少雨のため作物は小さいとのこと。このツアーではさんざん雨に降られているので、少々意外。

移動中、前中先生から白登山の場所を教えてください。中国と遊牧民の関係の歴史を勉強している身としては前漢の劉邦が匈奴に敗れた白登山はぜひ見ておきたい場所であったので、興奮しながら写真を撮る。気分はまるで匈奴の冒頓単于。以後もいろいろな説明を聞きつつ、ついつい目は白登山へ向かってしまった。

見学の後、植樹作業へ。開始とともに雷鳴が響き、作業中にポツポツと雨が。雨脚が強まるのとほぼ同時に作業



緑の地球環境センターでの作業中にも雨雲が...

終了。雨の少ないはずの華北でこう何度も雨にあうとは、と驚きつつ、「雨男」は自分では？と不安に。若干心当たりが……。

(中略) 昨日の長城につづき、今日の白登山、大同の城壁など、自分の勉強している歴史の舞台を訪れることができ、大変楽しい日程を過ごせた。

そして、遺跡だけではなく、粟

や麻など、資料にはよく出てくるのに実物を見たことがなかった作物を畑で実見できたこと、「北方の乾燥地域では、木は山の北斜面に発達する」といった、本の中でしか知らなかった知識を実地で見ることができ、さらに、その性質を応用した技術などを学ぶことができたのも、大きな収穫であった。

(峰雪幸人)

参加者募集

GEN 自然と親しむ会

秋のキノコ観察会



秋はキノコの季節、紅葉も楽しみですが、この機会に身近に見られるキノコを観察しに行きませんか。キノコは個人では判断が難しいですが、樹木医の栗栖さんに教えていただきながら観察を楽しめます。

○日時：10月17日(土) 10時～15時ごろまで



万博公園で見つけたアワタケ

○場所：万博記念公園(吹田市千里万博公園1)

○集合：万博記念公園中央口(大阪モノレール「万博記念公園前」駅より徒歩5分)

○案内：栗栖敏浩さん(樹木医、(株)環境総合テクノ環境部)

○持ち物：動きやすい服装・靴、帽子、弁当、飲み物、雨具、あればキノコ図鑑

○参加費：700円

○定員：20名(先着順)

○申込み：10月14日までに氏名・年齢・連絡先を GEN 事務所までご連絡ください。

※小雨決行

参加者募集

西伊豆 収穫合宿

収穫の秋、自然豊かな西伊豆で過ごしてみませんか。今回の合宿では圃場での収穫作業はもちろん、無煙炭化器を活用した強酸性土壌での緑化の可能性、動き出した地域創成という2つのテーマを掲げています。みなさんご参加をお待ちしています。

○日程：10月16日(金) 17時ごろ～18日11時ごろ

※現地集合、現地解散。途中参加、途中離脱、後泊も可能です。事前にご相談ください。

▼10月16日(金)

17時 西伊豆町宇久須 GEN 関東プランチ宿舎に集合 18時30分 海鮮料理店カネジョウにて夕食を兼ねて結成式

▼10月17日(土)

午前 GEN 関東プランチ宿舎庭先でのアセビ・シキミの成長観察 砒石採掘跡地緑化プロジェクトの現場視察 昼食 カネジョウにてB級グルメ「潮鰹うどん」 午後 関東プランチ圃場での収穫作業と整地作業 夕食は宿舎の庭で、無煙炭化器を用いたBBQ 夕食後、地元学セミナー「西伊豆ノ

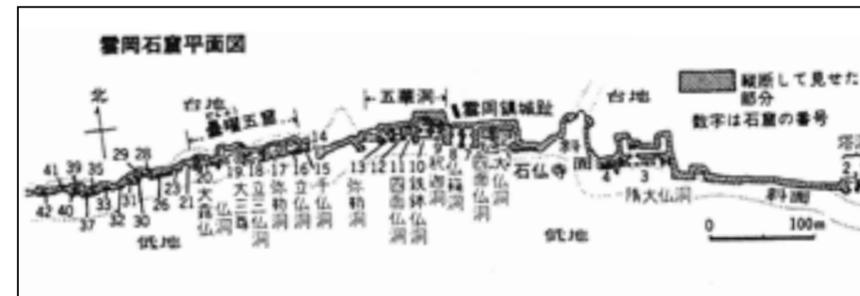
黄土高原史話<74>

平城最後の日

今夏の黄土高原スタディ・ツアー、中国人学生二人を含む総勢19名とか。また参加したいと思っているが、なかなか意に任せず。やむをえず今回は紙上で大同再訪ということに。具体的には、前回「孝文帝の大芝居」の続きです。

時間をさかのぼって、太和十四年(490)九月、孝文帝の祖母(生母?)にして時の最高実力者、馮太后が死去。十月、大同の北25キロの方山(西寺見梁山)の永固陵に葬ります。この永固陵、すでに大和五年(481)に起工し、同八年(484)の完成していた、いわゆる寿陵(生前に造っておいた墓)。

翌・大和十五年(491)七月、孝心篤き孝文帝、永固陵のすぐそばに万年堂なる寿陵を営み、自分の死後も太后の側にはべる決意を示す。「永固」といい「万年」といい、母(?)子の絆の永遠なるを表わす語にほかならぬ。



✓町地域創成の取り組みについて(交渉中)

▼10月18日(日)

午前 黄金崎マツ再生プロジェクトの視察 関東プランチ圃場での無煙炭化器による炭作り、景観菜の花の播種、収穫物の梱包、昼頃に現地解散。○場所：静岡県賀茂郡西伊豆町宇久須607

交通費は自己負担。以下は東京からの交通手段です。

1. 高速バス利用(新宿～修善寺) + 路線バス(修善寺～宇久須)

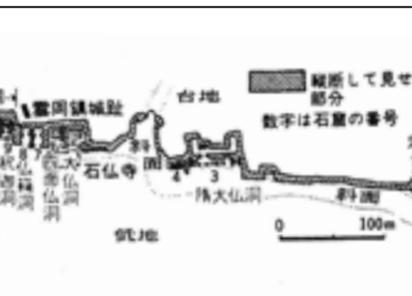
★宇久須まで往復の割引があります 電話予約/お問い合わせ 0570-01-

谷口 義介 (GEN 会員)

また、太后が死去した同じ年、その追善供養のため、雲崗に大きな石窟を造ろうとした。第五窟の東方、小さな谷をこえて東崖を垂直に切った、間口50メートルの巨大なもの。今いう第三窟にあたります。

これとは別に、大和十年(486)九月、孝文帝は詔を発して「明堂・辟雍を起し、同十五年(491)十月には「明堂・太廟成る」。明堂とは天子が諸侯を会して祭祀を行なうところ、辟雍は天子の学問所にして儒教の礼を実修する場所。つまり中華帝国の都城のシンボリックな建物です。ちなみに、この明堂の基礎を造るのに雲崗第三窟をうがったとき出た石材を利用したこと、本シリーズ<59>を参照あれ。

さらに、大和十六年(492)二月には、それまで平城の正殿だった太華殿をつぶし、大極殿の建設を開始。太極殿は



1255

2. 新幹線・踊り子号など東海道線利用(東京など～三島) + 伊豆箱根鉄道(三島～修善寺) + 路線バス(修善寺～宇久須)

3. 自家用車(東名沼津インターから伊豆縦貫道路を経由して1時間半) 駐車料金不要

中部、関西方面からは清水-土肥のフェリーを利用する方法もあります。

○参加費：8,000円(高校生以下は4,000円、幼児は無料) 酒代は別途。

○定員：12名(先着順)

○問合せ・申込み：10月11日(日)までに氏名、性別、代表者の連絡先

三国・魏から西晋にかけ帝都洛陽の正殿で、これを模して造るにあたり、名建築家の蔣少游を洛陽に派遣、その遺構を調査・測量させている(本シリーズ<64>参照)。翌・大和十七年(493)正月、竣工。百官をまねいて落成記念の大パーティーが開かれます。

つまり、以上の如き例からして、孝文帝に平城を離れる気持はなく、むしろ平城をして天下の中心たらしめんとしていたこと分明なり。

ところが、同じ大和十七年八月、孝文帝は永固陵に参拝した後、軍を率いて平城を出発。九月、洛陽に到着するや、突如として遷都を表明、十月には洛陽で都造りを始めます。

時を同じくして雲崗では、第三窟の造営が中止(今ある三尊の大仏は後世のもの)。他の中小の石窟や仏龕まで、一時に放棄されました。寿陵の万年堂も建設中止。

すなわち、中国化が孝文帝の基本理念だったとはいえ、大和十七年の洛陽遷都表明は、いささか唐突の感をまぬがれない。

大和十八年(494)十月、孝文帝は神主を奉じて平城を離れ、十一月、洛陽に。翌年九月、文武の百官も洛陽に移る。

大和二十三年(499)四月、孝文帝は洛陽で没し、北邙山の長陵に埋葬。平城方山の万年堂は、結局利用されなかった。

および合宿時使用の携帯電話番号をメールもしくは郵便でお知らせください。

e-mail: matizukuri.college@gmail.com 郵便 〒171-8501 豊島区西池袋3-34-1 立教大学文学部 上田信





守田敏也さんお話し会

～子どもの未来を守るために～
食と放射能・内部被ばくって何？

フリーライターで原発事故の問題に取り組む守田敏也さんのお話し会です。

- 日程：10月11日（日）14時～16時30分
- 場所：とよなか男女共同参画推進センターすてっぷ・ホール（豊中駅前ビルエトレ豊中5階）
- 講師：守田敏也さん（フリーライター。3.11以降原発事故問題を追いかけて、2012年に『内部被爆』（岩波ブックレット）を上梓。篠山市原子力対策委員会に参加し、避難計画に取り組む）
- 参加費：500円
- 申込み：当日参加も可能ですが、できれば事前にお申込みください。
- 主催・問合せ：放射能から豊中の市民・子どもを守る会 tel. 090-8980-2436（山田） e-mail: tj5tymd@gmail.com URL <http://nonuketoyonaka.com>

*当欄掲載のイベント情報は掲載時点のもので、その後変更になる可能性があります。主催者にお確かめのうえ、ご参加ください。
*当欄に情報をお寄せください。本紙は奇数月15日ごろの発行で、締切は前月の末です。なお、紙面の都合により掲載できない場合があります。ご了承ください。

blog.fc2.com/

NHKカルチャー京橋教室
野の道を歩く

GEN代表の前中久行さんの案内で関西各地の自然観察を楽しみませんか。

- 日程：10月3日奈良市春日奥山を歩く／11月14日兵庫県たつの市室津の野の道を歩く／12月19日大阪府能勢の大ケヤキとその周辺／2016年1月16日大阪府河内長野花の文化園とその周辺／2月20日京都市伏見から東山を歩く／3月19日滋賀県湖南の野の道を歩く
- 時間：10時から15時
- 受講料：全6回16,200円（1回体験（2,500円+税）ができます。詳しくはお問合わせください）
- 持ち物：弁当、飲み物、雨具、日よけ、動きやすい服装・靴
- 問合せ・申込み：NHKカルチャー京橋教室（〒534-0024 大阪市都島区東野田町2-9-7 K2ビル3F tel. 06-6358-3377 fax. 06-6358-

3322 URL <http://www.nhk-cul.co.jp/school/kyobashi/>

日本最大級の国際協力イベント
グローバルフェスタ
JAPAN2015

開発途上国や国際協力に触れる国内最大級のイベントです。

- 日程：10月3日（土）、10月4日（日）10時～17時
- 場所：お台場センタープロムナード（シンボルプロムナード公園内）
- 入場無料
- 共催：外務省、独立行政法人国際協力機構（JICA）、特定非営利活動法人国際協力NGOセンター（JANIC）
- 主催・問合せ：グローバルフェスタ JAPAN2015 実行委員会事務局 〒107-0052 東京都港区赤坂2-18-14 赤坂STビル4F tel. 03-3585-0213 fax. 03-3585-6671 e-mail: info@gfjapan2015.jp URL <http://www.gfjapan2015.jp/>